

# 石藤豊太

いしどう・とよた

火薬学者、工学博士、帝国大学工科大学教授、退役海軍造兵技士、  
日本化薬製造株式会社取締役技師長、従五位勲四等

## 経歴

生: 安政6年(1859年)5月2日、広島県福山市東霞町生まれ

没: 昭和20年(1945年)6月20日、享年87歳

明治元年(1868年)～3年(1870年)ごろ	9～11歳ごろ	藩校誠之館に学ぶ
明治4年(1871年)	13歳	藩の留学生として上京
明治5年(1872年)	13歳	大学南校仏学科(東京大学)入学
明治12年(1879年)	20歳	東京大学理学部(大学南校改称)卒業
—	—	東京大学理学部教授
明治20年(1887年)	28歳	火薬研究のためフランスへ留学
明治23年(1890年)	31歳	帰国
明治23年(1890年)	31歳	海軍造兵廠製薬科主任大技士
明治23年(1890年)	31歳	帝国大学工科大学教授(火薬学担任)《海軍と兼任》
明治26年(1893年)	34歳	陸軍技士
明治27年(1894年)	35歳	大阪工廠火薬研究所所長
明治30年(1897年)	38歳	京都帝国大学講師
明治33年(1900年)3月	40歳	工学博士の学位を受ける
—	—	東京砲兵工廠岩鼻火薬製造所所長
明治37年(1904年)	45歳	上海機器局技師
大正2年(1913年)	54歳	帰国し退官
—	—	九州帝国大学講師となり、火薬学講座を担当
大正4年(1915年)	56歳	日本化薬製造(株)取締役
—	—	学士会、日本化学会、工政会、火兵学会、工業学会などの会員
—	—	従五位勲四等

## 生い立ちと学業、業績

石藤喜七郎の3男。

東京大学卒業後、同大学教授となり、明治20年(1887年)火薬研究のためフランスへ留学を命ぜられ、役目を果たして明治23年(1890年)帰国した。

海軍大技士に任ぜられ、また帝国大学工科大学教授を兼ねた。

また、明治26年(1893年)陸軍技士に任じられ、明治27年(1894年)大阪工廠火薬研究所長となり、明治30年(1897年)京都帝国大学講師を兼任し、明治33年(1900年)3月工学博士の学位を受ける。

次いで東京砲兵工廠岩鼻火薬製造所長を命ぜられ、明治37年(1904年)清国政府の招へいに応じ、在官のまま上海機器局技師として赴任し、在職8年第二革命戦乱のため、大正2年(1913年)末帰国し退官した。

そして、大正5年(1916年)まで九州帝国大学講師となり、火薬学講座を担当した。

大正4年(1915年)日本化薬製造(株)創立と同時に、取締役就任した。

学士会、日本化学会、工政会、火兵学会、工業学会などの会員。

「私は幕末に生まれ、8、9歳のころ長州軍が福山に攻めてきたので、川口の方に避難したのを記憶している。

今の東霞町にあった藩校の福山誠之館でフランス語を習ったのが10歳ごろ、僚友5人とともに藩の留学生として上京したのが、明治4年(1871年)13歳のときで、当時は帯刀して鞆から神戸までは和船、神戸から横浜までは、船の両側で水車が回転して進むすばらしいアメリカ汽船、そして横浜から東京までは馬車で行った。

明治5年(1872年)大学南校に入学してからは、教師はすべてフランス人で、当然講義はすべて外国語、参考書はなく互いにノートを比べて整理しながら、ノート一つで勉強した。

そのころの学生生活は、なかなか愉快だった。

当時西洋料理店は東京中で1軒ぐらいいかなく、学生は牛鍋をつつき、酒を飲み、酔うては詩を吟じつつ帰り、神保町の辺りの巡査とよくけんかをしていた。

物価も安かった。

桑畑だった所に誠之舎が建ち、そこへ住んだ。

当時は野球が日本に初めて来たころで、今より硬い球で、グローブもつけず、かなり乱暴なやり方だった。

明治12年(1879年)に大学を卒業し、明治20年(1887年)にフランスへ留学したが、そのころ外国に注文した軍艦松島などの大砲が非常に大きく、特殊火薬を用いるので、その研究のために化学を専攻しフランス語ができた自分が、海軍より派遣された。

その留学中フランスにさえまだ電燈がなく、街にはガス燈がともっていた。」

と、昔を振り返っている。(『福山学生会雑誌』第89号、昭和14年12月30日発行)

その述懐により、幕末から明治半ばごろまでの文明開化時代の様子が興味深く偲ばれ、また使命感を抱いてよく勉強した誠之館の大先輩の言葉には、まことに味わい深いものがある。

石井和佳(昭和25年卒)

#### 情報提供: 石藤守雄氏(東京・石藤豊太氏の孫)

出典1:『福山学生会雑誌(第65号)』、97頁、福山学生会事務所編刊、昭和2年12月18日

出典2:『福山学生会雑誌(第89号)』、福山学生会事務所編刊、昭和14年12月30日

出典3:『大正人名辞典Ⅱ上巻』、日本図書センター編刊、1992年

出典4:『国立教育政策研究所紀要(第135集)』、57頁、「日本における産業連携—その創始期に見る特徴—」鎌谷親善、国立教育政策研究所

関連情報1:『石藤先生』、石藤豊太先生喜寿画帖編纂会編刊、昭和10年5月2日

2005年4月19日更新:肩書●2006年6月15日更新:タイトル●2006年7月25日更新:経歴●2006年8月21日更新:写真追加●2007年4月23日更新:関連情報●2008年2月13日更新:経歴・本文・出典●2008年7月9日更新:経歴・出典●2009年12月28日更新:経歴・出典●